

中津日田道路の全線開通に向けて

～コロナ禍におけるイベント開催とインフラツーリズムの魅力発信～



きり はた ゆ き
桐畑 由紀*

1. はじめに

地域の産業、観光、暮らしを支える中津日田道路は、重要港湾中津港を起点とし、大分県中津市から同県日田市に至る、延長約55kmの「地域高規格道路」である。

中津日田道路の整備により、東九州自動車道と連結し、福岡市や北九州市、大分市等を結ぶ循環型交通ネットワーク（図-1）が形成され、多様な交流の促進が期待されている。



図-1 中津日田道路周辺の道路網

令和2年度はコロナ禍の中ではあったが、その一部である中津市耶馬溪^{やばけい}地域を通る、耶馬溪道路（約5km）開通に伴う式典や、耶馬溪山国道路（約8.5km）の新規事業化に向けた機運醸成を図るイベントを開催した。イベントに際しては、将来を担う若い世代に興味を持ってもらえるよう、道路やトンネルを舞台としたインフラの魅力発信にも取り組んだ。

2. 現場を活かしたイベントの開催

令和3年2月28日に開通した耶馬溪道路（写真-1）は急峻な崖と谷が織りなす地形特性から、トン

ネルや橋梁7橋等大規模構造物が連続する現場であった。こうした現場条件を活かして、現場見学会をはじめとする様々なイベントを開催した。



耶馬溪道路（中津市側より撮影）



耶馬溪道路（日田市側より撮影）

写真-1 耶馬溪道路開通状況

1) 地上30mの橋梁上での書道パフォーマンス

耶馬溪道路7橋のうち、最も長い山移4号橋の完成を記念して、「書の甲子園」と呼ばれる国際高校生選抜書展で2回の優勝を誇る中津北高等学校書道部員により、「もっとながる中津日田道路への想

*大分県 土木建築部 中津土木事務所 企画調査課 主査

い」をコンクリート床版に揮毫するイベントを、平成30年5月25日に開催した（写真－2）。

地元高校生によるパフォーマンスは開通に向けた機運をさらに醸成させるものとなった。

※パフォーマンスの様子は下記URLより

<https://www.pref.oita.jp/site/nakatu17011/yabakeidouro-yamauturi4gou.html>



写真－2 書道パフォーマンス状況

2) 県内最長！トンネル内でのキャンプ

大分県は、全国一のトンネル数を有しており、開通する「鹿熊ふるさとトンネル」は延長2,986mで本県最長となる。このキャンプイベントは、開通前のトンネルに宿泊し、日本新三景・日本遺産である「耶馬溪地域」の観光資源を肌で感じてもらうため企画した。新型コロナウイルス感染防止対策として、県内からの参加に限定する等制限を設けたものの、参加募集開始からわずか2時間、さらに追加募集も5分で満員（小学生親子35組127名）に達し、開催前から活気づいていた。

当日は、工事現場見学・土木クイズコーナーやドローン体験等で「インフラの魅力」を伝え、夜には望遠鏡を用いた星空観察会を開催した。その他、耶馬溪地域の食材で調理された食事をケータリングする等、地域とも連携して取り組んだ。

参加者からは、「一生の思い出となった」「土木の壮大さを感じた」などの声を頂き大盛況であった。

その後、地域振興を目的に「トンネルホテル」が地元有志により開催される等、土木構造物を新たに活用したインフラツーリズムの可能性を見出した取組みと感じている。



図－2 耶馬溪のアートディレクターと作成したキャンプチラシ



写真－3 トンネルキャンプ状況

3) 開通記念イベント

耶馬溪道路開通の1週間前には、開通を祝う多くの方が参加可能なイベントを開催した。開催にあたっては、県内からの参加に限定する他、混雑を避けるためにWEBでの事前登録をお願いする等、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底した。

イベントは、大分県健康アプリ「おおいた歩得^{あるとっく}」とも連携し、「ウォーキング（県主催）」「サイクルロゲイニング（市主催）」に加え、地元から「耶馬溪マルシェ」を出店する等、約1,200人の来場のもと、地域全体で耶馬溪道路の開通を盛り上げた。



写真－4 イベント状況

3. WEB・SNSを活用した取組み

1) シンポジウムの開催

耶馬溪山国道路の新規事業化に向けての機運を高めるシンポジウムは、令和元年度から準備が行われていた。そうした中、コロナ禍となり中止を検討することも考えたが、中津日田道路の早期開通に対する地域の強い思いを受け、取り組んだのがWEB上でのシンポジウム開催である。

シンポジウムは、中津市に本社を置くダイハツ九州(株)の泉谷社長から「物流と道路整備」、立命館アジア太平洋大学(APU)の出口学長から「交易と道路網」等の意見表明や、中津日田地域の将来を思う若者の会による公開討論会、開通を期待する住民の声等で構成されている。令和2年9月30日に配信を開始し、終了(令和3年2月28日)までのアクセス数は54,592件と非常に多くの方に閲覧頂いた。現在もYouTube^{*1}で視聴可能である。



写真-5 シンポジウムでの意見表明撮影状況
耶馬溪アートディレクター 福田 まや氏

2) 耶馬溪道路開通式

コロナ禍における、式典の開催は困難を極めた。そこで、参加者を極力最小限に限定すると同時に多くの方が式典を共有できるようにYouTube^{*2}配信を企画した。



式では、開通までの施工状況や地域と連携した取組みを編集したイメージ動画^{*2}を上映した他、トンネル内の音響効果を活かしての中津市4高校吹奏楽部による生演奏で花を添える等、大盛況であった。



写真-6 開通式の様子(後方で4校吹奏楽部が演奏)

3) Instagramを活用した情報発信

開通に向けて現場の状況を伝えるため、若手職員を中心に取り組んだのが、県土木建築部初のInstagram^{*3}での情報発信である。中津日田道路の工事写真を投稿することで進捗状況を伝え、開通までのカウントダウンを行った。



令和2年6月1日から開始し、職員撮影による投稿の他、建設会社や設計コンサルタントとも協働し、ドローンを使って撮影した施工写真等でインフラの魅力を発信するとともに、中津地域の紹介を行っている。引き続き、土木の魅力や中津の魅力を詰め込んだ情報を広く発信することで、建設産業を盛り上げながら、インフラツーリズムによる地域活性化に繋がっていききたい。

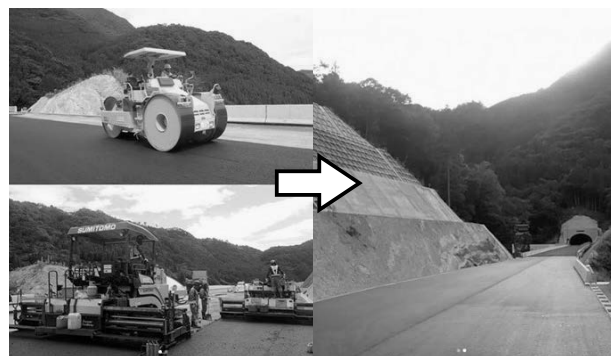


写真-7 Instagram投稿写真抜粋(耶馬溪道路舗設状況)

4. おわりに

今回のイベントを含め、中津日田道路の整備にご協力頂いた地域の方々をはじめ、関係者の皆様に感謝申し上げます。そして、これからも早期の全線開通に向けて取り組んでいきます。

※1「中津日田道路 シンポジウム」で検索

※2「耶馬溪道路 開通式」で検索

※3「Instagram 中津土木事務所」で検索

【著者紹介】 桐畑 由紀 (きはた ゆき)

平成16年大分県入庁(土木職)。インフラ整備に関する事業の計画立案、工事監督等の職務に従事。砂防課、大分土木事務所等6箇所です砂防事業や道路事業を中心に担当し、現職。